平成１７年度　全国高等学校総合体育大会　サッカー競技

大会名	平成１７年度 全国高等学校総合体育大会 サッカー競技	第4日	準々決勝	平 成 17 年 8 月 6 日 (土) 16:00 キックオフ	競技時間	７０分 PK戦	記録者	松尾 祐樹 加藤 誠基 向高 渉
					観衆	750人		

会場	市原スポレクパークC	天候	晴 [✓ 曇] 雨	風	強 [✓ 弱] 無	[✓ 芝] 土	状態	[✓ 良好] 不良 泥沼	審判	主審 河野 暁	副審 山崎 裕彦 河合 英治	第４の審判員 神庭 力

【チーム名】					【チーム名】
[✓ kick off] 鹿児島実業 高等学校 （鹿児島） [✓ 先]	1	0	前半	1	kick off 青森山田 高等学校 （青森） 先
		1	後半	0	1
			延前		
			延後		
		7	PK戦	8	

				6	2	3	4	9	12	8	7	10	背番号	背番号	10	5	4	8	7	6	17	16	13				
				×	○	○	×	○	○	○	○	○	○ ×	○ ×	○	○	○	○	○	×	○	○	○				

交代選手	交代時間	シュート（得点者は＊印） 延後	延前	後半	前半	学年	選手名	背番号	位置	位置	背番号	選手名	学年	シュート（得点者は＊印） 前半	後半	延前	延後	交代時間	交代選手
	分					3	溝之上一志	1	GK	GK	1	大久保隆一郎	2					分	
	分			1	1	3	本城　宏紀	3	DF	DF	2	川邊　裕紀	3					分	
	分					3	赤井田侑志	4	DF	DF	4	鈴木　琢朗	3					分	
	60 分				1	3	西岡　謙太	5	DF	DF	7	百目木雅臣	3	1				分	
	51 分					3	田之畑利生	15	DF	DF	13	高橋　良信	3					分	
	分					3	三代　将平	6	MF	MF	5	櫛引　祐輔	3					分	
	分				1	3	赤尾　　公	⑩	MF	MF	6	馬見塚　光	3					分	
	分					3	永岩　貞亮	7	MF	MF	8	松本　　怜	3	1　*				分	
	分				1	3	豊満　貴之	8	MF	MF	9	ﾍﾞﾛｶﾙ･ﾌﾗﾝｸ	2					56 分	
	分				2	3	栫　　大嗣	9	FW	FW	⑩	小澤　竜己	3	1				分	
交代選手	HT 分				1	3	迫田　亮介	11	FW	FW	11	伊東　　俊	3	1				69 分	交代選手
	交代要員																		
5 番	分					3	土佐ﾀﾀﾞｼﾏﾙｾﾛ	2	MF	GK	12	松原　直毅	3					分	番
15 番	分			*　1		2	飯森　裕貴	12	FW	DF	15	木村　　翔	3					分	番
番	分					3	梅橋　孝宗	13	MF	MF	16	板倉　大智	2					分	9 番
番	分					3	猿渡　裕二	14	DF	FW	14	佐々木絢也	1					分	番
11 番	分					1	楠木　啓介	16	DF	FW	17	川西　翔太	2					分	11 番
番	分					2	横手　大地	17	GK									分	番
		0	0	2	7	小計	9	合計	シュート数		合計	4	小計	4	0	0	0		

警告（C）・退場（S）など	合計	延後	延前	後半	前半	チーム合計	前半	後半	延前	延後	合計	警告（C）・退場（S）など
６６分　③C　ラフプレー	3			0	3	G　K	1	3			4	４７分　⑧C　ラフプレー
	2			1	1	C　K	1	1			2	
	15			7	8	直接　FK	4	6			10	
	1			0	1	間接　FK	1	0			1	
	0			0	0	P　K	0	0			0	

時間	得点者	アシスト	得点経過	時間	得点者	アシスト	得点経過
69 分	飯森	・	(左CK)⑩∩GKﾊﾟﾝﾁﾝｸﾞ（中央）⑫ボレーS（２０m）	28 分	松本	・	（右センターライン付近）⑧ボールをカット中央へ～（ゴール左）⑧S（１３m）
分				分			
分				分			
分				分			
分				分			
分				分			
分				分			
分				分			
分				分			
分				分			

《略号例》　～：ドリブル　→：ゴロのパス　：浮球のパス　H：ヘディング　HS：ヘディングシュート　×：混戦　S：シュート
オウンゴール　こぼれ球　直接ＦＫ　間接ＦＫ　ＧＫ　右・左ＣＫ　スローイン　バー返り　ポスト返り

戦評者氏名　（北海道函館東高等学校）　勤務先又は所属　（田中弘道）

青森山田は４：４：２で⑨がトップ下、⑧が右サイドに張る配置。前半やや押されながらも⑤、⑥の両ボランチが攻撃を限定し、ペナルティ内に入られながらも決定機を防ぐ。攻撃時には⑨が変化のあるパスで組み立て、⑧やオーバーラップする⑦の鋭いドリブルで突破を図る。また、身体の使い方が上手い⑩、⑪がポストプレーから動き直し、スペースでボールを受けチャンスを作り出す。鹿児島実業は４：４：２でスタート。FW⑨⑪がロングフィードを受けトップ下に入る⑩へ繋ぎ、両サイドの⑧、⑦へ展開し縦へのスピードあるドリブルで崩しにかかる。前半は相手の限定されたDFに戸惑う場面があったが、後半、３：５：２にし、相手の動きも止まりだし両サイドから多くのチャンスを作り出した。「力」対「技」の戦いとなった準々決勝は、PK戦でも緊迫した展開になり、結局、青森山田に軍配が上がった。